

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

宇都宮大学は、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献することを理念とし、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践するため、次の基本的な方針を定めている。

1) 幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成する、2) 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進する、3) 地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開する
この理念と方針を基に、つぎの「教育目標」を掲げる。

1) 基盤教育を出発点として、現代社会に必要な汎用的能力（宇大スタンダード）を育成する、2) 専門教育を通じて、実践的で専門的な知識と技能を涵養する、3) それらのふたつを有機的に結びつけた4年一貫教育により、幅広い教養と行動的知性を備え、未来の社会を拓き支える人材を育成する

宇大スタンダード

【論理的思考力】 筋道を立てて論理的に物事を考える力、【情報活用力】 情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力、【表現力】 感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力、【学修力】 一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力。変化に対応し、自らを変えようとする力、【協働力】 チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋がりや協働を生み出す力、【課題解決力】 多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取り組む力

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

フロンティア食品科学科では未来農学（持続可能で豊かな未来の社会を切り拓くための農学）を実施できる人、特に、食を取り巻くエコシステムの地域や国際的な現場において新たな価値を創造できる人材を育成する。生物資源のさまざまな可能性、特に嗜好と健康に与える影響について明らかにし、加工による食品の機能強化や生物資源の持続的活用などの科学技術の発展のために、基本的かつ応用的な教育研究を行う。食品や食材などの新しい未来を開拓することで、持続可能で健全な食の推進等農学のポストハーベスト分野で社会に貢献することのできる行動的知性を備えた人材（技術者）を育成する。

生物生産イノベーション科学科では未来農学を実施できる人、特に、食を取り巻くエコシステムの地域や国際的な現場において新たな価値を創造できる人材を育成する。動物・植物・昆虫・微生物・土壌を対象に生物生産の過程や仕組み、生命科学などについて理解を深めるとともに、そこで得た知識を実社会で活用することができるように、アクティブラーニングを導入した教育プログラムを編成しており、農学関連分野においてイノベーションを創出できる行動的知性を備えた人材（技術者）を養成する。

環境システム科学科では持続的かつ合理的な流域圏の基盤デザインに関わる知識や技術について学び、農林業のGXやDXなどの取り組みに貢献することのできる行動的知性を備えた人材（技術者）を養成する。2年生後期から、①農業環境工学プログラム、②森林科学プログラムのいずれかに分属し、学科共通の専門領域の学修に加え、それぞれの専門領域について学修する。この2プログラムではそれぞれ、①田園空間の総合的デザインや食料生産環境システムの設計・制御に関わる専門技術者、②森林の木材生産と環境保全に関わる専門技術者を育成する。

エコロジカル社会経済学科では食料やその生産基盤となる農林業に関する問題について、経済学や社会学など社会科学の領域から研究・教育を行う。農業生産や環境負荷、消費者ニーズ、循環社会、政策など幅広い専門知識や理論の理解し、誰一人取り残されることなく、十分な食料を確保し続けられる持続可能なエコロジカル社会に貢献することのできる行動的知性を備えた人材を育成する。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

宇都宮大学における教員養成は上述の（1）①の目標に沿った形で実施される。すなわち、幅広い人間性の涵養と、教員としての実践的な能力の両面から教育を行い、これらの有機的な結合により、総合的な能力を持った教員を養成することを

目標としている。宇都宮大学では、地域教育界との連携を図りながら、教職センターが中核となり共同教育学部を中心とした学部等担当部局の連携のもとに教員養成が行われている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

○フロンティア食品科学科

フロンティア食品科学科における教員養成は、上述の(1)②の目標に沿った形で実施される。すなわち、生物や生命科学について深い見識と、生物生産から食品加工に至る過程や仕組みについて得た知識を活用できる、行動的知性を備えた教員養成が行われている。その使命を果たすため、学部共通科目として、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群で構成される農学リテラシー科目、農学を学ぶ上で必要となる自然科学の基礎的な事項を身につけさせる自然科学基礎科目、農学分野の研究の楽しさを知り、自身のキャリアにおける学びの継続を促すための『研究への扉』の科目群を学ぶ。

『食品の材料の科学』科目群：生物資源や食品などのさまざまな可能性を解明するための知識を修得する、『食品の加工・機能性の科学』科目群：食品の加工による機能強化および生物資源の持続的活用に関する知識を修得する、『基礎実験・実習』科目群：生物資源の可能性を明らかにし、食品の嗜好および健康への影響を評価するために必要な科学的技能を修得する、『健全な食の科学』科目群：複眼的に自然科学と社会科学を捉え、農学関連分野における価値創出力と課題解決力を培う。

これらの化学や生物学を中心とした「理科」および「農業」に関する知識を身につけ、高等学校における教職に必要な力を身につけるとともに、自然科学や農学における諸課題を解決する能力を持った人材の養成を行うことを理念とする。

この理念を実現するため、授業では、「理科」に必要とされる生物・化学・物理学・地学・実験に関する深い専門知識と技能はもとより、「農学」に関する幅広い知識を得るフィールド実践・体験の機会を充実させる。

1年次では「理科」に関する専門知識と「農業」に関する幅広い専門知識の学修を開始する。また、2年次から始まる教職科目の履修に備え、関連する教養科目の履修を通じて基礎的な知識を修得する。2年次では「理科」と「農業」に関する本格的学修を行う。同時に、教職関連科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養う。3年次では2年次までの学修をもとに、「理科」と「農業」に関する専門知識を深化させ、学校教育に必要な地域における諸問題を解決する問題解決型の実験および農学の倫理についての学習を行うことで、次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身につける。4年次では、それまでに培った知識・課題解決能力・コミュニケーション能力を基に教育実習を行う。教育実習において生徒の多様性を考慮した上で個々の持つ課題を発見するとともに自己の成長を促し、実践的な指導力の強化と自らの課題についての解決を図る。これらについては履修カルテにより達成度を確認する。

以上の理念および構想より、『「理科」に関する深い専門知識と高い運用能力、「農業」に関する幅広い専門知識、国内外での行動力・実践力を基盤に、高等学校において「理科」および「農業」を自然科学的・社会科学的な視点から指導できる教員』をフロンティア食品科学科の目指す教員像とする。

○生物生産イノベーション科学科

生物生産イノベーション科学科における教員養成は、上述の(1)②の目標に沿った形で実施される。すなわち、生物や生命科学について深い見識と、生物生産の過程や仕組みについて得た知識を活用できる、行動的知性を備えた教員養成が行われている。その使命を果たすため、学部共通科目として、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群で構成される農学リテラシー科目、農学を学ぶ上で必要となる自然科学の基礎的な事項を身につけさせる自然科学基礎科目、農学分野の研究の楽しさを知り、自身のキャリアにおける学びの継続を促すための『研究への扉』の科目群を学ぶ。また、生物生産科学の専門性とイノベーションの基礎を身につけさせるために、以下の専門科目群を開設する。『生物生産基礎』科目群：生命科学や生物生産を学ぶために必要な自然科学の基礎を培う、『生物生産応用』科目群：生物を解析し、活用するための基礎的な技能や実践的能力を養う、『生物生産基幹』科目群（植物生産科目・動物生産科目・生産環境科目）：生物生産の観点から生物や農業を取り巻く環境を理解するために必要な知識を身につけることができる、『生物生産イノベーション』科目群：農学関連産業に直結した実践的な知見と先進的な技術を身につけることができる

これらの生物学を中心とした「理科」および「農業」に関する知識を身につけ、高等学校における教職に必要な力を身につけるとともに、自然科学や農学における諸課題を解決する能力を持った人材の養成を行うことを理念とする。

この理念を実現するため、授業では、「理科」に必要とされる生物・化学・物理学・地学・実験に関する深い専門知識と技能はもとより、「農学」に関する幅広い知識を得るフィールド実践・体験の機会を充実させる。

1年次では「理科」に関する専門知識と「農業」に関する幅広い専門知識の学修を開始する。また、2年次から始まる教職科目の履修に備え、関連する教養科目の履修を通じて基礎的な知識を修得する。2年次では「理科」と「農業」に関する本格的学修を行う。同時に、教職関連科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養う。3年次では2年次までの学修をもとに、「理科」と「農業」に関する専門知識を深化させ、学校教育に必要な地域における諸問題を解決する問題解決型の実験および農学の倫理についての学習を行うことで、次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身につける。4年次では、それまでに培った知識・課題解決能力・コミュニケーション能力を基に教育実習を行う。教育実習において生徒の多様性を考慮した上で個々の持つ課題を発見するとともに自己の成長を促し、実践的な指導力の強化と自らの課題についての解決を図る。これらについては履修カルテにより達成度を確認する。

以上の理念および構想より、『「理科」に関する深い専門知識と高い運用能力、「農業」に関する幅広い専門知識、国内外での行動力・実践力を基盤に、高等学校において「理科」および「農業」を自然科学的・社会科学的な視点から指導できる教員』を生物生産イノベーション科学科の目指す教員像とする。

○環境システム科学科

環境システム科学科における教員養成は、上述の(1)②の目標に沿った形で実施される。すなわち、物理学、生物学および化学について深い見識と、持続的かつ合理的な流域圏の基盤デザインに関わる知識や技術について得た知識を活用できる、行動的知性を備えた教員養成が行われている。

その使命を果たすため、学部共通科目として、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および研究への扉科目群で構成される農学リテラシー科目を置く。また、持続的かつ合理的な流域圏の基盤デザインに関わる基礎知識を理解し、農林業における諸問題を解決に導くことができる技術者を育成するために、以下の専門教育科目を設置する。

環境システム科学に関する自然科学の基礎理論を理解するための基礎科目群、流域圏の基盤デザインに関わる基礎知識を修得するための自然基盤系科目群、豊かな農林地域を支える動植物の生態学を修得するための生態学系科目群、農林業を合理化する機械システムや解析技術を修得するための機械システム系科目群、空間デザインのための測量・製図技術を修得するための基盤計測系科目群、持続的な農林業空間の創出のための社会の仕組みや制度を学ぶための計画系科目群、社会的要
求の変化を理解し、臨機応変な対応方法を学ぶための融合・応用科目群、農業環境工学分野の技術者として社会に貢献するための専門知識・技術を修得する農業環境工学技術系科目群、森林科学分野の技術者として社会に貢献するための専門知識・技術を修得する森林科学技術系科目群

これらの物理学や生物学を中心とした「理科」および「農業」に関する知識を身につけ、高等学校における教職に必要な力を身につけるとともに、自然科学や農学における諸課題を解決する能力を持った人材の養成を行うことを理念とする。

この理念を実現するため、授業では、「理科」に必要とされる生物・化学・物理学・地学・実験に関する深い専門知識と技能はもとより、「農学」に関する幅広い知識を得るフィールド実践・体験の機会を充実させる。

1年次では「理科」に関する専門知識と「農業」に関する幅広い専門知識の学修を開始する。また、2年次から始まる教職科目の履修に備え、関連する教養科目の履修を通じて基礎的な知識を修得する。2年次では「理科」と「農業」に関する本格的学修を行う。同時に、教職関連科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養う。3年次では2年次までの学修をもとに、「理科」と「農業」に関する専門知識を深化させ、学校教育に必要な地域における諸問題を解決する問題解決型の実験および農学の倫理についての学習を行うことで、次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身につける。4年次では、それまでに培った知識・課題解決能力・コミュニケーション能力を基に教育実習を行う。教育実習において生徒の多様性を考慮した上で個々の持つ課題を発見するとともに自己の成長を促し、実践的な指導力の強化と自

らの課題についての解決を図る。これらについては履修カルテにより達成度を確認する。

以上の理念および構想より、『「理科」に関する深い専門知識と高い運用能力、「農業」に関する幅広い専門知識、国内外での行動力・実践力を基盤に、高等学校において「理科」および「農業」を自然科学的・社会科学的な視点から指導できる教員』を環境システム科学科の目指す教員像とする。

○エコロジカル社会経済学科

エコロジカル社会経済学科における教員養成は、上述の(1)②の目標に沿った形で実施される。すなわち、食料やその生産基盤となる農林業について深い見識と、環境負荷、消費者ニーズ、循環社会、政策などについて得た知識を活用できる、行動的知性を備えた教員養成が行われている。その使命を果たすため、学部共通科目として、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および研究への扉科目群で構成される農学リテラシー科目を置く。また、食やその生産基盤となる農林業に関連する対象を社会科学の領域から学び、環境、社会、経済的に持続可能なフードシステムの構築により、社会課題を解決することのできる能力を備えた人材育成のために、以下の専門教育科目を設置する。

社会科学の基礎を理解するための基礎科目群、食や農林業という農学の対象を分析するための応用科目群、持続可能な社会の実現に向けた問題意識の向上や課題発見につなげるための発展科目群、課題発見や解決につながる論理的思考力・判断力や、情報収集・分析力を磨き上げるために必要な演習・トレーニング科目群、社会の現場から問題を発見し、社会・地域との連携を図りながら適切な解決策を見出すとともに、その実践にも取り組める行動力を身につけるための実習系科目群

これらの社会科学を中心とした「農業」に関する知識を身につけ、高等学校における教職に必要な力を身につけるとともに、地域社会や農村における諸課題を解決する能力を持った人材の養成を行うことを理念とする。

この理念を実現するため、授業では、「農学」に関する幅広い知識を得るフィールド実践・体験の機会を充実させる。

1年次では「農業」に関する幅広い専門知識の学修を開始する。また、2年次から始まる教職科目の履修に備え、関連する教養科目の履修を通じて基礎的な知識を修得する。2年次では「農業」に関する本格的学修を行う。同時に、教職関連科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養う。3年次では2年次までの学修をもとに、「農業」に関する専門知識を深化させ、学校教育に必要な地域における諸問題を解決する問題解決型の実験および農学の倫理についての学習を行うことで、次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身につける。4年次では、それまでに培った知識・課題解決能力・コミュニケーション能力を基に教育実習を行う。教育実習において生徒の多様性を考慮した上で個々の持つ課題を発見するとともに自己の成長を促し、実践的な指導力の強化と自らの課題についての解決を図る。これらについては履修カルテにより達成度を確認する。

以上の理念および構想より、『「農業」に関する幅広い専門知識、国内外での行動力・実践力を基盤に、高等学校において「農業」を自然科学的・社会科学的な視点から指導できる教員』をエコロジカル社会経済学科の目指す教員像とする。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

○フロンティア食品科学科（高等学校・理科）

(2)②で示した学科の目的・性格から高等学校「理科」の教職課程を設置する。

宇都宮大学農学部生応用生命化学科では、高等学校「理科」の免許状がすでに認定されているが、新学科のフロンティア食品科学科においても「理科」の課程認定を受けようとする理由は以下のとおりである。

現行の学習指導要領によれば「理科」における教育目標は、高等学校では「自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」こととされているが、これらが本学科の設置主旨とも合致していることが「理科」の教職課程を申請する理由である。

本学科の教育目標では、生物資源のさまざまな可能性について明らかにし、加工による食品の機能強化や生物資源の持続的活用などの科学技術の発展のために、基本的かつ応用的な教育研究を行い、持続可能で健全な食の推進に貢献する人材を育成することを挙げており、まさに前述の(1)から(3)の能力を身につけるための、基礎実験・実習科目群、科学的な探究力を養うための食品の材料の科学科目群、主体的に科学的に探究するフロンティア食品科学特別演習およびフロンティア食品科学科卒業論文研究をカリキュラムに配置している。特に、本学科で扱う対象は微生物から動物まで自然の事物・現象そのものであり、理科の教育目標と多くの部分で一致していることから、フロンティア食品科学科に高等学校「理科」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえる。

○フロンティア食品科学科（高等学校・農業）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「理科」および「農業」の教職課程を設置する。

応用生命化学科では、高等学校「理科」の免許状がすでに認定されているが、新学科のフロンティア食品科学科においては「理科」に加えて「農業」の課程認定を受けようとする理由は以下のとおりである。

現行の学習指導要領によれば「農業」における学習指導要領の教育目標は、「農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(2) 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」こととされており、これらが本学科の設置主旨である農学のポストハーベスト分野で社会貢献できる人材の育成とも合致していることが「農業」の教職課程を申請する理由である。

本学科では農業を学ぶ上での基盤となる、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および農学リテラシー科目を学ぶ。また、農学の根幹をなす食品科学の専門性を身につけさせるために、食品の材料の科学科目群、食品の加工・機能性の科学科目群、健全な食の科学群などを配置する。特に本学科では食品加工実習など実践的・体験的な学習活動に重きをおき、まさに「農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を身につけることができる。以上により、フロンティア食品科学科に高等学校「農業」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

○生物生産イノベーション科学科（高等学校・理科）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「理科」の教職課程を設置する。

宇都宮大学農学部生物資源科学科では、高等学校「農業」の免許状がすでに認定されているが、新学科の生物生産イノベーション科学科においては「農業」に加えて「理科」の課程認定を受けようとする理由は「理科」についての学習指導要領が本学科の設置主旨と合致しているためである。すなわち、本学科の教育目標では、動物・植物・昆虫・微生物・土壌を対象に生物生産の過程や仕組み、生命科学などについて理解を深めることを挙げており、観察・実験科目群、科学的な探究力を養う生物生産基礎科目群、主体的に科学的に探究する生物生産イノベーション特別演習および卒業論文研究をカリキュラムに配置しており、まさに「理科」における学習指導要領の(1)から(3)の能力を身につけることを目指す。特に、本学科で扱う対象は微生物から動物まで自然の事物・現象そのものであり、理科の教育目標と多くの部分で一致していることから、生物生産イノベーション科学科に高等学校「理科」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

○生物生産イノベーション科学科（高等学校・農業）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「農業」の教職課程を設置する。

生物資源科学科では高等学校「農業」の免許状がすでに認定されているが、新学科の生物生産イノベーション科学科の設置主旨が「農業」における学習指導要領の教育目標と合致していることが「農業」の課程認定を受けようとする理由である。

本学科では農業を学ぶ上での基盤となる、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および農学リテラシー科目を学ぶ。また、農学の根幹をなす生物生産科学の専門性を身につけさ

せるために、生物生産基礎科目群、生物生産応用科目群、生物生産基幹科目群を農学関連産業に直結した実践的な知見と先進的な技術を身につけることができる生物生産イノベーション科目群などを配置する。特に本学科ではフィールド実践演習や生物生産イノベーション実習など実践的・体験的な学習活動に重きをおき、まさに「農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を身につけることができる。以上により、生物生産イノベーション科学科に高等学校「農業」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

○環境システム科学科（高等学校・理科）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「理科」の教職課程を設置する。

宇都宮大学農学部農業環境工学科および森林科学科では、高等学校「農業」の免許状がすでに認定されているが、新学科の環境システム科学科の設置主旨が「理科」および「農業」における学習指導要領の教育目標と合致していることが「農業」に加えて「理科」の課程認定を受けようとする理由である。

本学科の教育目標では、自然科学の基礎や動植物の生態学科目を身につけ、基本的かつ応用的な教育研究を行い、流域圏の基盤デザインに貢献する人材を育成することを挙げており、まさに前述の(1)から(3)の能力を身につけるための、自然科学の基礎理論を理解するための基礎科目群、基礎実験・実習科目群、科学的な探究力を養うための自然基盤系科目群、主体的に科学的に探究する環境プロジェクト演習および環境システム科学科卒業論文研究をカリキュラムに配置している。特に、本学科で扱う対象は森林から田園まで流域の自然の事物・現象そのものであり、理科の教育目標と多くの部分で一致していることから、理科の教職課程を設置する意義がある。以上により、環境システム科学科に高等学校「理科」および「農業」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

○環境システム科学科（高等学校・農業）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「理科」および「農業」の教職課程を設置する。

農業環境工学科および森林科学科では、高等学校「農業」の免許状がすでに認定されている。前述の「農業」における学習指導要領の教育目標が本学科の設置主旨である食料生産環境システムの設計・制御や、森林の木材生産と環境保全分野で社会貢献できる人材の育成とも合致していることが引き続き「農業」の教職課程を申請する理由である。

本学科では農業を学ぶ上での基盤となる、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および農学リテラシー科目を学ぶ。また、農学の根幹をなす農業環境工学や森林科学の専門性を身につけさせるために、農業環境工学技術系科目群や森林科学技術系科目群などを配置する。特に本学科では測量・環境計測実習、農業工学演習、森林科学実習など実践的・体験的な学習活動に重きをおき、まさに「農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を身につけることができる。以上により、環境システム科学科に高等学校「理科」および「農業」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

○エコロジカル社会経済学科（高等学校・農業）

(2) ②で示した学科の目的・性格から高等学校「農業」の教職課程を設置する。

宇都宮大学農学部農業経済学科では、高等学校「農業」の免許状がすでに認定されているが、新学科のエコロジカル社会経済学科の設置主旨も「農業」の学習指導要領と合致していることが「農業」の教職課程を申請する理由である。

本学科では農業を学ぶ上での基盤となる、未来志向科目群、体験・実践系科目群、社会連携科目群、データサイエンス科目群、自然科学基礎科目群および農学リテラシー科目を学ぶ。また、農学の根幹をなす農業経済や農村社会についての専門性を身につけさせるために、社会科学の基礎を習得する基礎科目群並びに、食や農林業という農学の対象を分析し、持続可能な社会の実現に向けた問題意識を養う応用科目群を配置する。特に本学科では課題発見や解決につながる論理的思考力・判断力や、情報収集・分析力を磨き上げるために必要な演習科目群に重きをおき、まさに「農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を身につけることができる。

以上により、エコロジカル社会経済学科に高等学校「農業」の教職課程を設置する意義および必要性は十分にあるといえることができる。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職センター
目的：	教職課程の改善，充実及び教員養成機能の強化並びに充実を図るとともに，学内外の教育関連機関等と連携・協働し，教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的とする。
責任者：	教職センター長
構成員（役職・人数）：	センター長，副センター長，専任教員，兼任教員，その他の教員
運営方法：	センターの運営に関する重要事項を審議するため，センター会議を置き，必要事項について審議する。センター会議は委員の過半数の出席をもって成立する。また，会議の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

②

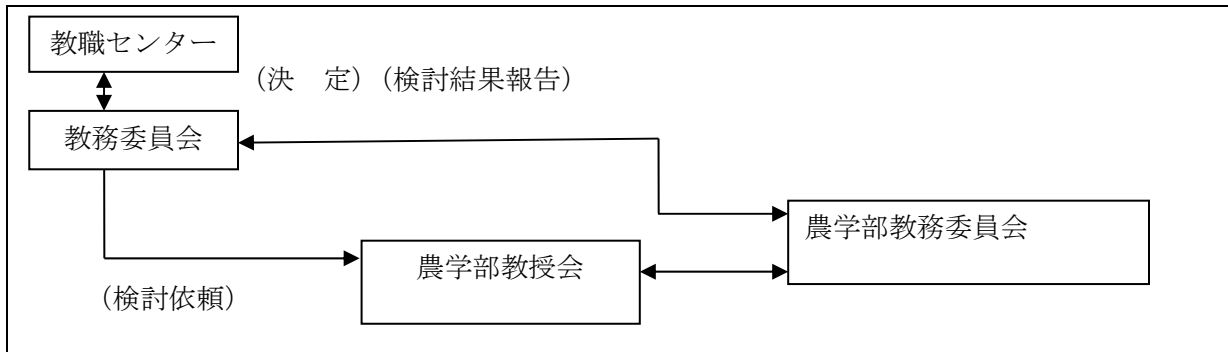
組織名称：	教務委員会
目的：	教務に関する全学的な重要事項について審議する。
責任者：	理事（学務・情報・財務・総務担当）・副学長
構成員（役職・人数）：	理事のうち学長が指名した者 1名，各学部から選出された教員 各 1～2名，地域創生科学研究科から選出された教員 1名，大学教育推進機構から選出された教員（基盤教育センター長を除く。）1名，基盤教育センター長，学務部長，その他委員会が必要と認めた者 若干名
運営方法：	月 1 回開催し，教務に関する全学的な重要事項について審議する。 委員会は，委員の過半数の出席をもって成立する。また，委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

③

組織名称：	農学部教務委員会
目的：	宇都宮大学農学部教授会内規第 8 条の規定に基づき，教務に関する事項を審議し，併せて必要な実務を行う。
責任者：	農学部長
構成員（役職・人数）：	各学科から選出された教員 各 1 名，その他必要に応じて農学部長が指名した教員 若干名
運営方法：	月 1 回開催し，農学部の教務に関する事項について審議する。 委員会は，委員の過半数の出席をもって成立する。また，委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

栃木県教育委員会栃木県総合教育センターとの協力

- ・各種研修への講師派遣
- ・「栃木県教育研究発表大会」の共同開催
- ・「教職員サマーセミナー」の共同開催

市町村教育委員会との協力

- ・校内授業研究への教員派遣
- ・学生ボランティアの派遣
- ・宇都宮市教育委員会との連携協議会の設置

学校教育、生涯学習、スポーツ、文化等の7分科会を設置し、連携事業を行う。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 学校支援ボランティア

連携先の調整方法： 教職センター地域連携部門が中心となって運営し、県市町村の教育委員会、小中高等学校及び社会教育施設からの依頼を受け、学生への情報提供・仲介業務を行い、学生が地域社会で活動する環境を整えている。

具体的な内容： 授業中での学習指導の補助、放課後学習・土曜学習の支援、屋内外での活動の援助、特別支援教育・外国人児童生徒教育の援助、不登校児童のケア 等

III. 教職指導の状況

○ポートフォリオ（履修カルテ）を活用した自己評価・相互評価と指導

学生個人が学期毎に学習と活動の自己評価（振り返りと到達点の確認ならびに課題設定）を行い、これを通じた担任教員との個人面談で相互評価を行っている。併せて担任教員は学生個々のニーズ・実態の確認を行い、履修相談に応じ、また指導・アドバイスをを行っている。

○教員採用試験対策セミナーにおける情報提供と指導

就職支援委員会主催の「教員採用試験対策セミナー」（2年次開始、年に春期・秋期の2回において教員採用試験に係わる情報提供を行うとともに、採用試験に向けた学習の仕方、心構え等のアドバイスをを行っている。

○就職支援室における履修相談

就職支援室の室員2名が学生の履修相談と就職相談を毎日行っている。

様式第7号ウ

＜農学部フロンティア食品科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を身に付ける。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・生物学、化学および物理学の基礎を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・生体成分の化学、細胞生物学を学び、化学および生物学分野の専門的知識を身に付ける。 ・基礎化学実験により、化学実験器具類の取り扱い方法、試薬類の性質、実験操作の基礎を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を身に付ける。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を身に付ける。 ・代謝生化学を学び、生物学および化学分野における専門的な理解を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を身に付ける。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を身に付ける。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・有機化学および再生資源の活用について学び、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 ・実践的な英語力をより深く身に付ける。
	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・地学の基礎を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中等理科教育の基礎理論について理解を深める。 ・中学校・高等学校理科の目標・内容、構造、学習指導方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を身に付ける。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・フロンティア食品科学実験を通して、化学および生物実験法と応用科学的なものの見方や考え方を包括的に身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の基礎理論、中学校・高等学校理科の目標・内容、その構造と学習指導の方法・活動等について理解する。 ・食と免疫・細胞・微生物との関わりについて学び、食の科学を切り口として生物学と化学の分野を融合的に理解することで、科学的なものの見方や考え方を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ（教諭）

<農学部フロンティア食品科学科>（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	生物学基礎		スポーツと健康	
			化学基礎		Integrated English I A	
			物理学基礎		日本国憲法	
	後期				データサイエンス入門	
			生体成分の化学			
			細胞生物学			
2年次	前期	教育心理学(中・高)	代謝生化学		Advanced English I	
	後期	教職入門(中・高)	ファインケミカルズ-有機化学-		Advanced English I	
		教育原論(中・高)	バイオリファイナリー			
		特別活動論(中・高)				
		教育相談(中・高)				
		教育の制度と経営(中・高)				
	教育社会学(中・高)					
通年		地学基礎				
3年次	前期	中等理科教育法 I	フロンティア食品科学実験			
		教育課程論				
		教育の方法・技術(中・高)				
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	中等理科教育法 II	食と免疫			
		総合的な学習の時間の指導法	食と細胞の科学			
			食品加工と微生物			
4年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜農学部フロンティア食品科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（農業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を身に付ける。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・現代社会の課題を未来農学の観点から理解するために必要な基礎的素養を身につける。 ・農業生産や食品の加工・流通の基礎知識について実践的に学ぶことで、農学の様々な分野について理解を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・食農科学を学び、農学の基本を多面的に理解するとともに、農学データサイエンスの基礎を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を身に付ける。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を身に付ける。 ・食品学、微生物学および食の安全学について学び、食品科学分野の基盤となる専門的な知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を身に付ける。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を身に付ける。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・食農マネジメント論を学び、社会科学的な応用力を身に付ける。 ・健康栄養学を学び、食と健康に関する知識を身に付ける。 ・食品化学および食品加工・貯蔵法を学び、食品の特性とその利用に関する知識と、それらを農業生産物利用の現場で活用する力を身につける。 ・実践的な英語力をより深く身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育の各分野における教育目標と教育計画、各科目の取り扱いと指導方法および評価方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・菌類が開く食の未来および食品機能の科学を学び、農産物を活用する力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育における各科目の教育目標とその指導計画、指導上の取り扱いと実験実習の在り方および評価方法と留意点等について理解する。 ・農学の倫理および高度教養セミナーを学び、倫理的素養と農業生産や食品の加工・流通の現場における応用力を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜農学部フロンティア食品科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（農業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に設定する 科目	施行規則第66条の6 に関する科目	その他教職課程に関 連のある科目
年次	時期					
1 年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	未来農学		スポーツと健康	
			フィールド実践演習Ⅰ		Integrated EnglishⅠA	
					日本国憲法	
	後期		食農科学			
			農学データサイエンス基礎			
2 年次	前期	教育心理学(中・高)	食品学		Advanced EnglishⅠ	
			微生物学			
			食の安全学			
	後期	教職入門(中・高)	食農マネジメント論		Advanced EnglishⅠ	
		教育原論(中・高)	色・味・香りの化学			
		特別活動論(中・高)	健康栄養学			
		教育相談(中・高)	食品加工・貯蔵の科学			
	教育の制度と経営(中・高)					
	教育社会学(中・高)					
3 年次	前期	農業科教育法Ⅰ	職業指導概論Ⅰ			
		教育課程論	食品機能の科学			
		教育の方法・技術(中・高)	菌類が開く食の未来			
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	農業科教育法Ⅱ	職業指導概論Ⅱ			
		総合的な学習の時間の指導法	農学の倫理			
			高度教養セミナー			
4 年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜農学部農学部生物生産イノベーション科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を習得する。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・生物学、化学および物理学の基礎を習得する。特に生物では植物、昆虫および動物の系統進化、分類、生理生態、形態および遺伝についての概要を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に就いて生徒を指導するにあたって期待される、幅広い教養を身につける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を習得する。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得する。 ・遺伝情報とタンパク質の合成や遺伝子の伝わり方とその育種的活用についての基礎理論と知識を身につける。 ・動植物の生理特性や環境応答についての基礎を幅広く修得する。 ・土壌の成り立ちや地球環境における土壌の役割を理解する。土壌資源の管理・保全や劣化が食料生産や環境問題に及ぼす影響について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を習得する。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を習得する。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・遺伝子工学についての理論と技術を修得する。 ・高度な実践的英語力を習得する。
	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・地学に関わる基礎的知識を修得する。 ・基礎生物学実験により、高校までの生物に関する実験方法を取得し、各実験の内容を理解・考察し、生物分野のレポートの書き方を修得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中等理科教育の基礎理論について理解を深める。 ・中学校・高等学校理科の目標・内容・構造、学習指導方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・自らの実験を通して生命を対象とした科学的なものの見方や考え方を習得する。また、種々の実験器具類および試薬類の取り扱い方を理解する。 ・生物学を基礎として、多様な昆虫資源の特質を分子から個体・個体群・生態系レベルで理解し、説明することができる。 ・動物における行動の特性を理解し、行動についての科学的なものの見方や考え方を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の基礎理論、中学校・高等学校理科の目標・内容、その構造と学習指導の方法・活動等について理解する。 ・応用生命化学の科学的なものの見方や考え方を、自らの実験を通して習得する。また、種々の実験器具類、特に分析機器の取り扱い方について理解する。

4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜農学部農学部生物生産イノベーション科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	生物学基礎		スポーツと健康	
			化学基礎		Integrated English I A	
			物理学基礎		日本国憲法	
			生物学概論		データサイエンス入門	
	後期					
2年次	前期	教育心理学(中・高)	分子生物学		Advanced English I	
			植物遺伝育種学			
			植物生理学			
			動物生理学			
			土壌環境科学			
	後期	教職入門(中・高)			Advanced English I	
		教育原論(中・高)	遺伝子工学基礎			
		特別活動論(中・高)				
		教育相談(中・高)				
		教育の制度と経営(中・高)				
教育社会学(中・高)						
通年		地学基礎				
		生物学実験基礎				
3年次	前期	中等理科教育法 I	遺伝子機能解析学			
		道德教育	昆虫の生命科学			
		教育課程論	動物行動学			
		教育の方法・技術(中・高)	生命科学実験 I			
		生徒指導(中・高)	生命科学実験 II			
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	中等理科教育法 II				
		総合的な学習の時間の指導法				
	4年次	前期	事前・事後指導			
高等学校教育実習						
後期		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜農学部生物生産イノベーション科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（農業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を習得する。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・現代社会の課題を未来農学の観点から理解するために必要な基礎的素養を身につける。 ・フィールド実践演習Ⅰにより、農業の実際を体験する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・食農科学により農学の基本を多面的に理解するとともに、農学データサイエンスの基礎を習得する。 ・植物生産の基礎、動物生産の基礎、植物保護学により、農業生産の基本的理論を修得するとともに、生物生産フィールド実習により実践力を身につける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を習得する。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得する。 ・安全な家畜生産に必須の天然資源である飼料の栄養的特徴を理解し、説明できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を習得する。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を習得する。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・食農マネジメント論を習得し、社会科学的な応用力を身につける。 ・植物病理および園芸生産に関する概要を習得する。 ・動物の繁殖に関わる理論と実際に関する知識を習得する。 ・高度な実践的英語力を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育の各分野における教育目標と教育計画、各科目の取り扱いと指導方法および評価方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・栽培作物を生産するための生理生態と基礎技術に関する知識を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育における各科目の教育目標とその指導計画、指導上の取り扱いと実験実習の在り方および評価方法と留意点等について理解する。 ・農学の倫理および高度教養セミナーを習得し、倫理的素養と農業の現場における応用力を身につける。

4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ(教諭)

<農学部農学部生物生産イノベーション科学科>(認定課程:高等学校一種免許状(農業))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	未来農学		スポーツと健康	
			フィールド実践演習Ⅰ		Integrated English I A	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	後期		食農科学			
			農学データサイエンス基礎			
			植物生産の基礎			
			動物生産の基礎			
			植物保護学			
			生物生産フィールド実習			
2年次	前期	教育心理学(中・高)	家畜飼養学		Advanced English I	
	後期	教職入門(中・高)	食農マネジメント論		Advanced English I	
		教育原論(中・高)	植物病理学			
		特別活動論(中・高)	園芸学			
		教育相談(中・高)	動物繁殖学			
		教育の制度と経営(中・高)				
		教育社会学(中・高)				
3年次	前期	農業科教育法Ⅰ	職業指導概論Ⅰ			
		道徳教育	作物学			
		教育課程論				
		教育の方法・技術(中・高)				
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	農業科教育法Ⅱ	職業指導概論Ⅱ			
		総合的な学習の時間の指導法	農学の倫理			
			高度教養セミナー			
4年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜農学部環境システム科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を習得する。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・生物学、化学および物理学の基礎を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に就いて生徒を指導するにあたって期待される、幅広い教養を身につける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を習得する。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得する。 ・動植物の生態とそれらを取り巻く環境との関係について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を習得する。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を習得する。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・構造物の設計に必要な力学の基礎を習得し、応力の計算法等を身につける。 ・流体運動の力学および治山砂防に関わる力学について理解し、活用する力を身につける。 ・野生動物の生態や行動を理解し、被害を抑制するための管理法を修得する。 ・地球規模での気候変動の状況を把握し、対応策を講じるための力を身につける。 ・高度な実践的英語力を習得する。
	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・地学に関わる基礎知識を修得する。 ・基礎生物学実験により、高校までの生物に関する実験方法を取得し、各実験の内容を理解・考察し、生物分野のレポートの書き方を修得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中等理科教育の基礎理論について理解を深める。 ・中学校・高等学校理科の目標・内容、構造、学習指導方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・土壌と土質に関する特性と物理性について理解する。 ・森林を構成する生物資源についての実験を通して、生物および化学的な調査法を身につける。 ・高等学校の理科(物理)の授業を行うときに必要な物理的な知識と指導方法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の基礎理論、中学校・高等学校理科の目標・内容、その構造と学習指導の方法・活動等について理解する。

4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ（教諭）

<農学部環境システム科学科>（認定課程：高等学校一種免許状（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	生物学基礎		スポーツと健康	
			化学基礎		Integrated English I A	
			物理学基礎		日本国憲法	
	後期				データサイエンス入門	
2年次	前期	教育心理学(中・高)	植物生態学		Advanced English I	
			植物生産環境学			
			動物生産環境学			
			田園生態学			
	後期	教職入門(中・高)	構造力学		Advanced English I	
		教育原論(中・高)	流体力学・水理学			
		特別活動論(中・高)	野生動物被害管理学			
		教育相談(中・高)	流域水文学			
		教育の制度と経営(中・高)	治山砂防学			
		教育社会学(中・高)	気候変動へのレジリエンス			
通年		地学基礎				
		生物学実験基礎				
3年次	前期	中等理科教育法Ⅰ	土壌物理学・土質力学			
		道徳教育	森林科学実験			
		教育課程論				
		教育の方法・技術(中・高)				
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	中等理科教育法Ⅱ				
		総合的な学習の時間の指導法				
4年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜農学部環境システム科学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（農業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を習得する。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・現代社会の課題を未来農学の観点から理解するために必要な基礎的素養を身につける。 ・フィールドワークにより、農業の実際を体験する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義や教師の役割、職務内容などについて理解する。 ・自らの意見を持ち、他者の意見に耳を傾け受容し、他者と協力して課題に取り組むことができる。 ・食農科学により農学の基本を多面的に理解するとともに、農学データサイエンスの基礎を習得する。 ・様々な農業データの解析のための初歩的計算ができると共に、常微分方程式や偏微分などを解析の道具として使うことができるようになる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を習得する。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得する。 ・食農マネジメント論を習得し、社会科学的な応用力を身につける。 ・農林地における計測法の目的、有用性、測定精度などを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達のメカニズムと特性についての知識を習得する。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を習得する。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・農林業における生物資源の循環的エネルギー利用と管理技術の基礎について習得する。 ・農地環境や森林の保全並びに農地造成・造林についての基礎的な技術を理解する。 ・農業機械の仕組みと活用法の基礎を習得する。 ・高度な実践的英語力を習得する。
	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・農林地における測量・環境計測を実施し、基本技術を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育の各分野における教育目標と教育計画、各科目の取り扱いと指導方法および評価方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・農地における水利環境の理解と管理に必要な知識を習得する。 ・森林計画に関する基本的な理論と方法を理解し、森林資源の管理計画を立案できる。

	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育における各科目の教育目標とその指導計画、指導上の取り扱いと実験実習の在り方および評価方法と留意点等について理解する。 ・農学の倫理および高度教養セミナーを習得し、倫理的素養と農業の現場における応用力を身につける。 ・農地、森林の管理のため、リモートセンシングやGIS等の空間情報工学技術について実践的に活用できるような知識能力を習得する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。

様式第7号ウ(教諭)

<農学部環境システム科学科>(認定課程:高等学校一種免許状(農業))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	未来農学		スポーツと健康	
			フィールド実践演習Ⅰ		Integrated EnglishⅠA	
					日本国憲法	
	後期		食農科学			
			農学データサイエンス基礎			
			応用数学			
2年次	前期	教育心理学(中・高)	食農マネジメント論		Advanced EnglishⅠ	
			測量・環境計測学			
	後期	教職入門(中・高)	バイオマス利用管理学		Advanced EnglishⅠ	
		教育原論(中・高)	農地環境学			
		特別活動論(中・高)				
		教育相談(中・高)	圃場機械学			
		教育の制度と経営(中・高)	樹木・造林学			
教育社会学(中・高)						
通年		測量・環境計測実習				
3年次	前期	農業科教育法Ⅰ	職業指導概論Ⅰ			
		道德教育	水利環境工学			
		教育課程論	森林計画学			
		教育の方法・技術(中・高)				
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	農業科教育法Ⅱ	職業指導概論Ⅱ			
		総合的な学習の時間の指導法	農学の倫理			
			高度教養セミナー			
		空間情報工学				
4年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

〈農学部エコロジカル社会経済学科〉(認定課程:高等学校一種免許状(農業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法、情報処理および教育現場でのICTの活用について基礎的な事項を理解する。 ・実践的な英語力を習得する。 ・スポーツと健康について実践的に学び、生涯にわたってスポーツを行う重要性を理解する。 ・現代社会の課題を未来農学の観点から理解するために必要な基礎的素養を身につける。 ・フィールドワークにより、農業の実際を体験する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・食農科学により農学の基本を多面的に理解するとともに、農学データサイエンスの基礎を習得する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念、教育に関する歴史・思想等についての基礎理論・知識を習得する。 ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得する。 ・農業経営の安定性と持続性を規定するリスクやハザードを採り上げ、リスクマネジメント等の観点から農業農村の安全と安心について学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のために必要な心理・発達メカニズムと特性についての知識を習得する。 ・教育課程の編成に関する基礎理論・知識、教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方、教材の活用法、情報機器の活用に係る基礎理論・知識を習得する。 ・特別活動の理論や指導法について理解する。 ・食農マネジメント論、食農原論、林産物産業論、農業経済学、人と森林の千年史およびフードシステム論を習得し、社会科学的な応用力を身につける。 ・高度な実践的英語力を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育の各分野における教育目標と教育計画、各科目の取り扱いと指導方法および評価方法について理解する。 ・学習集団形成に必要な基礎理論、知識を習得する。 ・生徒指導・進路指導に関するさまざまな現象の理解を深める。 ・いじめ、不登校、心の支援等について、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。 ・食と農と地域の社会学および農政学を習得し、応用社会科学的なものの見方を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校農業教育における各科目の教育目標とその指導計画、指導上の取り扱いと実験実習の在り方および評価方法と留意点等について理解する。 ・農学の倫理および高度教養セミナーを習得し、倫理的素養と農業の現場における応用力を身につける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析・教材研究を生かした授業を構想し、適切な指導案を作成し、実施できる。 ・生徒の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。 ・生徒の発達段階と特性を考慮して適切に接し、かつ気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、共感的態度で接することができる。 ・挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いている。 ・高等学校教育の本質を理解し、どのような学習・研究が今後求められるかを理解する。

後期	・4年間の教職課程の学びと活動を振り返り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をはじめ、教員として必要な資質能力について自分の到達点と課題を確認することができる。
----	--

様式第7号ウ（教諭）

＜農学部エコロジカル社会経済学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（農業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	ICTを活用した教育の理論と実践	未来農学		スポーツと健康	
			フィールド実践演習Ⅰ		Integrated English I A	
					日本国憲法	
	後期		食農科学			
			農学データサイエンス基礎			
2年次	前期	教育心理学(中・高)	農村の安全と安心の科学		Advanced English I	
	後期	教職入門(中・高)	食農マネジメント論		Advanced English I	
		教育原論(中・高)	食農原論			
		特別活動論(中・高)	林産物産業論			
		教育相談(中・高)	農業経済学			
		教育の制度と経営(中・高)	人と森林の千年史			
		教育社会学(中・高)	フードシステム論			
3年次	前期	農業科教育法Ⅰ	食と農と地域の社会学			
		道德教育	農政学			
		教育課程論	職業指導概論Ⅰ			
		教育の方法・技術(中・高)				
		生徒指導(中・高)				
		進路指導(中・高)				
		特別支援教育基礎論				
	後期	農業科教育法Ⅱ	農学の倫理			
		総合的な学習の時間の指導法	高度教養セミナー			
			職業指導概論Ⅱ			
4年次	前期	事前・事後指導				
		高等学校教育実習				
	後期	教育実践演習(中・高)				